

京都市交響楽団

第557回定期演奏会

The 557th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

2012 5/18

金

午後7時開演(午後6時開場)

京都コンサートホール

Friday, May 18, 2012 / 7:00PM
Kyoto Concert Hall

京都市営地下鉄烏丸線「北山」駅下車、出口1番から南へ徒歩約5分

開演前(午後6時40分ごろから)は「プレトーク」でお楽しみください。
「プレトーク」はホールステージ上で開催します。

指揮 ジョセフ・ウォルフ
Conductor: Joseph WOLFE

ヴァイオリン ヴィルデ・フラング
Violin: Vilde FRANG

エルガー:序曲「コケイン」(ロンドンの下町で) op.40

ブルッフ:ヴァイオリン協奏曲第1番ト短調 op.26

メンデルスゾーン:交響曲第3番イ短調「スコットランド」 op.56

Elgar: "Cockaigne" (In London town), overture op.40

Bruch: Concerto for violin and orchestra No.1 in G minor op.26

Mendelssohn: Symphony No.3 in A minor "Scottish" op.56

©Lillian Birnbaum

イギリスの若き俊英
ジョセフ・ウォルフの「スコットランド」
ノルウェーから来たヴァイオリンの妖精
ヴィルデ・フラング登場!

入場料 ①¥4,500 ②¥4,000 ③¥3,500 ④¥2,000 (舞台後方席)

- ◆プレイガイド ・京都コンサートホール (075)711-3090 (ホームページからオンラインチケット購入もできます)
・電子チケットびあ (0570) 02-9999 Pコード155-824
・ローソンチケット (0570) 000-407 Lコード52018
- ◆当日残席がある場合のみ発売: 学生券&後半券 S¥2,000 A¥1,500 B¥1,000
※学生券は開演1時間前から(学生証をご提示ください)、
※後半券は開演後から休憩終了(後半開始)まで発売(学生券は、席種は選べますが、座席指定はできません)
- ◆1歳以上未就学のお子様は「託児ルーム」(有料・要予約)をご利用ください。
(お子様お1人につき1,000円/5月11日までに京響075-711-3110へお申し込みください)
- ◆10枚以上のチケットお申し込みには団体割引(10%OFF)があります!京響(075-711-3110)までお問い合わせください。
- ◎お問い合わせ 京都コンサートホール (075) 711-3090 京都市交響楽団 (075) 711-3110
- ◎ホームページ: <http://www.kyoto-ongeibun.jp/kyotoconcerthall/> (京都コンサートホール)
・ <http://www.kyoto-symphony.jp/> (京都市交響楽団)
- ◎未就学のお子様のご入場はお断りいたします。
- ◎都合により曲目、出演者等が変更となる場合がございます。

主催: 財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 京都市 協賛: ローム株式会社 協力: 株式会社ドルチェ楽器 後援: (株)エフエム京都 発行: 財団法人京都市音楽芸術文化振興財団

美しいひびき、感動にみちた
音楽との出会いをお届けします。

Rohm Music
Foundation
ロームミュージックファンデーション

ROHM
SEMICONDUCTOR



京都市交響楽団 第557回定期演奏会

The 557th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

英国の巨匠サー・コリン・デイヴィスの実息で、天賦の才能を持つ指揮者ウォルフが、
歴史に基づく幻想を旋律美で紡いだメンデルスゾーン最後の交響曲「スコットランド」を聴かせます。
共演は、ムターの秘蔵っ子で巨匠たちに認められるノルウェーの美しきヴァイオリニスト、ヴィルデ・フラング。
北欧の自然のごとく雄弁な演奏に注目!



指揮 ジョセフ・ウォルフ Conductor: Joseph WOLFE

将来が極めて囁望されるイギリスの指揮者ジョセフ・ウォルフはロンドン、ドレスデン、ベルリンで学び、そのキャリアをスタートさせたが、すでに今日、人も羨むほどの契約や再招請を受けている。最近ではロンドン交響楽団をバービカンセンターで指揮し、ただちに再招請を受けているほか、ロンドン・フィル、イギリス室内管、バーミンガム市響、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ロイヤル・フィル、ロンドン・モーツァルト・プレイヤーズ、アイルランド国立響、オランダ放送フィル、バンベルク響、ミュンヘン室内管、日本フィル、札幌響などと共演を重ねており、その演奏はいずれも非常に高い水準にあると賞賛されている。2011年には大阪センチュリー響への再演、東京都響と共演。

ヴァイオリニストであったジョセフ・ウォルフは、指揮をドレスデンのカール・マリア・フォン・ウェーバー大学在学中に学び始め、そこでドレスデン室内交響楽団を立ち上げ、その指揮をしている。同時期にはブランデンブルク・フィルの客演指揮者でもあった。英国に帰るとすぐにギルドホール音楽演劇学校で勉強を続け、ここではロンドン・ニムロッド・アンサンブルを結成。その後は、モスクワ響とチェコ・フィルとのコースを通してコントラト・フォン・アーベル(セルジュ・チェリビダッケの助手)、並びにヨルマ・バヌーラ教授(ヘルシンキ)の元で学んだ。2004年夏のタンゲルウッド音楽センターに招かれた際には、ひとつのコンサートの指揮をクルト・マズアと分担し、プリテンのオペラ『真夏の夜の夢』の指揮助手を務めた。また、彼は第7回リーズ指揮者コンクールで受賞している。2003年にはバイエルン州立ユース・オーケストラとの初共演の後、すぐに同オーケストラの2004年のミュンヘン、ガスタイクでのコンサートとニュルンベルクでのコンサートに招請を受ける。両コンサートはバイエルン・ラジオで放送され、2006年夏には同放送局の録音のために再訪している。ロンドンでは、ギルドホール音楽演劇学校で2005～06年シーズンの指揮者フェローシップを受けたが、その期間中はギルドホール・シンフォニアの指揮と室内楽の指導、そして指揮クラスの助手などを務めた。



©Sussie Ahlburg

ヴァイオリン ヴィルデ・フラング Violin: Vilde FRANG

ヴィルデ・フラングは1986年ノルウェー生まれ。10歳でノルウェー放送交響楽団との共演でオーケストラ・デビューを飾り、2年後にはマリス・ヤンソンスの招きでオスロ・フィルハーモニー管弦楽団にデビューを果たした。その後もヨーロツバ、北米、極東でハレ管、BBCフィル、チェコ・フィル、スウェーデン放送響、コペンハーゲン・フィル、アムステルダム響、シンガポール響などのオーケストラと共演するなど、幅広く活躍している。また、今までに共演した指揮者にはアダム・フィツシャー、アレクサンドル・ラザレフ、アリ・ラシライネン、リチャード・ヒコックス、ロビン・ティチャアティ、ユライ・ヴァルクーア、マキシム・ヴェンゲーロフ、ヴァシリ・シナイスキーらがいる。ニューヨークのカーネギー・ホール、アムステルダム・コンサート・ヘボウ、モスクワのチャイコフスキー・ホールなどでリサイタルやソリストとして演奏しているほか、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン音楽祭、メクレンブルク=フォアポンメルン音楽祭、パッド・キツィンゲン音楽祭、ラインガウ音楽祭、ヴェルビエ音楽祭、ルツェルン音楽祭などにも登場している。室内楽にも熱心に取り組んでいるフラングは、故郷ノルウェーではトウルス・モルクとレイフ・オヴェ・アンズネス、チェンバー・ミュージック・コネクト・ザ・ワールド・フェスティバルではギドン・クレーメルとユリ・バジュメツ、シャンペリー音楽祭ではマルタ・アルゲリッチとルノー・カブソン、ゴティエ・カブソンと共演している。また、2007年にはアンネ=ソフィー・ムターと共演し、スカンジナビアとドイツでのツアーでバッハの二重協奏曲を演奏して大成功をおさめ、これに引き続き2008年にムターから再び招かれ、カメラータ・ザルツブルクとのアメリカツアーに参加した。2007年にロンドン・フィルにデビューした直後、フラングは2009年シーズンのロイヤル・フェスティバル・ホールでのコンサートに同オーケストラと首席指揮者であるウラディーミル・ユロフスキとの再共演が約束され、この公演は非常に高い評価を得たウイグモア・ホールでのデビュー・リサイタルの後に実現した。2011年3月初来日、NHK交響楽団との共演は絶賛を博した。2012年、荣誉あるクレディ=スイス=ヤング・アーティスト賞を受賞。



京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団(京響)は、1956年の創立以来、日本唯一の自治体直営オーケストラとして「市民文化の形成と青少年の情操の向上、住民の福利の増進に資する」という理念に基づいて、我が国を代表するオーケストラとして成長を遂げてきた。06年には創立50周年を迎え、シェーンベルク「グレの歌」京都初演、国内7都市へのコンサート・ツアーなどで成功をおさめた。また、京都市ユニオナーオーケストラの指導、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、07年「第25回京都府文化賞特別功労賞」「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月からは、第12代常任指揮者に広上淳一、京響初の桂冠指揮者に大友直人が就任し、09年は「スプリング・コンサート」や「オーケストラ・ディスカバー」など新たな企画で注目を集めた。2010年11月、広上淳一指揮による定期演奏会のライブ録音CD第1弾を発売し、2012年2月には広上淳一指揮ライブ録音CD第2弾を発売する。半世紀という節目を経て、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進をはかっている。

次回予告

2012年 3/25(日)から発売!



©Marc Ginot

第558回 定期演奏会

ラトヴィアの新世代マエストロ、ポーガのブラームス & フレンチ・ピアノリズムの新風、バヴゼのラヴェル

日時: 2012年6月10日(日) 午後2時30分開演

会場: 京都コンサートホール

指揮: アンドリス・ポーガ

独奏: ジャン=エフラム・バヴゼ(ピアノ)

曲目: ウェーバー=歌劇「魔弾の射手」序曲op.77

ラヴェル: ピアノ協奏曲ト長調

ブラームス: 交響曲第1番八短調op.68

入 場 料

◎¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,500 P ¥2,000 (舞台後方席)

次回予告

2012年 4/21(土)から発売!



©K.Miura

第559回 定期演奏会

広上淳一が描く2人の天才作曲家の音絵巻
~モーツァルトを愛したリヒャルト・シュトラウス~

日時: 2012年7月20日(金) 午後7時開演

会場: 京都コンサートホール

指揮: 広上 淳一(常任指揮者)

曲目: R.シュトラウス: 13管楽器のためのセレナード

変ホ長調op.7

モーツァルト: 交響曲第36番八長調「リンツ」K.425

R.シュトラウス: 交響詩「ティル・オイレンシュピーゲル
の愉快ないたずら」op.28

R.シュトラウス: 歌劇「ばらの騎士」組曲op.59

入 場 料

◎¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,500 P ¥2,000 (舞台後方席)